CHUBUSHIRYO CO.,LTD

2026年10月30日

2027年3月期 上期
決算説明資料

東証プライム・名証プレミア　証券コード：2053
ホームページ　https://www.chubushiryo.co.jp/
お問い合わせ先　TEL: 052-204-3050　総務人事部

目次

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

27.3期 上期 決算レビュー

◇ 連結経営成績 4

◇ 営業利益の増減要因 5

◇ 連結財政状態 6

◇ 事業環境①②③ 7-9

◇ 飼料セグメントの状況

① 畜産飼料の動向 10

② 原料ポジションの状況 11

③ 変動費及び固定費の状況 12

④ 水産飼料の動向 13

◇ その他セグメントの状況 14

株主還元

◇ 株主還元計画 16

◇ 株主優待 17

通期見通し

◇ 通期計画 19

◇ 今後の見通し①② 20-21

その他

◇ トピックス①②③ 23-25

◇ 参考資料 26

目次

27.3期 上期 決算レビュー

◇ 連結経営成績 4

◇ 営業利益の増減要因 5

◇ 連結財政状態 6

◇ 事業環境①②③ 7-9

◇ 飼料セグメントの状況

① 畜産飼料の動向 10

② 原料ポジションの状況 11

③ 変動費及び固定費の状況 12

④ 水産飼料の動向 13

◇ その他セグメントの状況 14

株主還元

◇ 株主還元計画 16

◇ 株主優待 17

通期見通し

◇ 通期計画 19

◇ 今後の見通し①② 20-21

その他

◇ トピックス①②③ 23-25

◇ 参考資料 26

連結経営成績

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

前年同期比で増収増益、特に不動産売却益により純利益が大幅に増益（単位：百万円）

	通期計画	26.3上期 実	27.3上期 実	前年同期比	計画進捗率
売上高	221,000	102,991	112,788	+9,796	51.0%
飼料	201,000	93,953	101,858	+7,905	50.7%
その他 ※1	20,000	9,038	10,929	+1,891	54.6%
営業利益	5,900	2,414	3,001	+587	50.9%
経常利益	6,200	2,725	3,384	+659	54.6%
セグメント利益 ※2	10,100	2,949	7,100	+4,150	70.3%
（不動産売却益調整後）※3	（6,986）	（2,949）	（3,986）	（+1,036）	（57.1%）
飼料	5,700	2,528	2,898	+370	50.9%
その他 ※1	1,100	484	762	+278	69.3%
調整額 ※4	3,300	△62	3,439	+3,501	104.2%
当期純利益	6,900	2,082	4,824	+2,741	69.9%
（不動産売却益調整後）※3	（4,757）	（2,082）	（2,682）	（+599）	（56.4%）
設備投資額	3,900	1,547	1,764	+216	45.2%
減価償却費	3,300	1,451	1,503	+51	45.6%

飼料セグメント
- 10-13ページ　参照

その他セグメント
- 14ページ　参照

売上高　増収
- 飼料セグメントは、畜産飼料の平均販売価格の上昇等により増収
- その他セグメントは、鶏卵販売の売上高増加等により増収

営業利益　増益
- 次ページで説明

セグメント利益・調整額
- 不動産売却益等の特別利益増加が大きく寄与

※資産効率の向上を図るため横浜市の物流倉庫賃貸物件を譲渡（26年1月30日に公表）

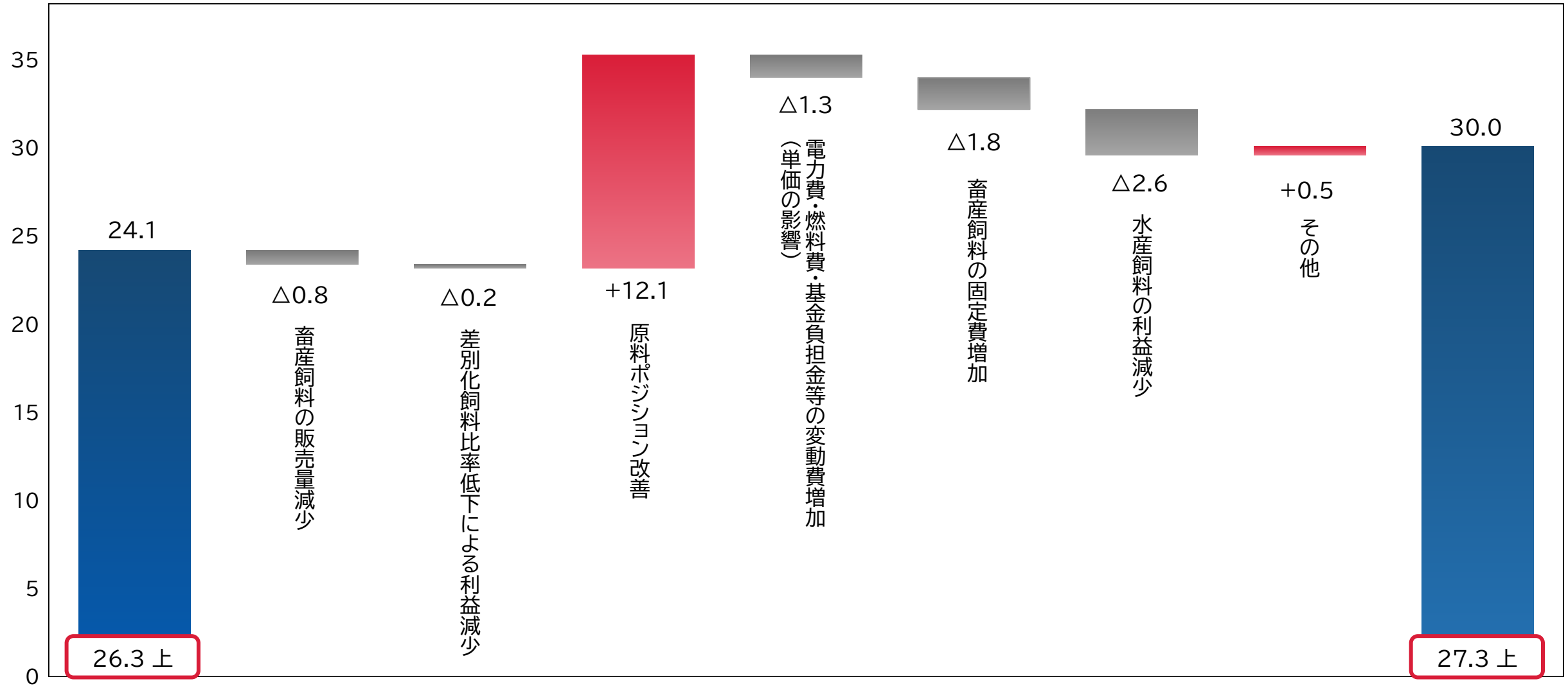
※1. その他セグメント：鶏卵販売・肥料・畜産用機器・保険代理業等
2. セグメント利益：税金等調整前当期純利益
3. 不動産売却益調整後：不動産売却益を除外した数値
4. 調整額：各報告セグメントに配分していない全社費用、金融収支を含む

営業利益の増減要因

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

◇ 営業利益

▶ 水産飼料の利益減少や畜産飼料の固定費増加等があったものの、原料ポジション改善(原材料価格動向を踏まえた付加価値販売の推進等)により増益



連結財政状態

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

27.3上期　要約連結貸借対照表

（単位：億円）

流動資産	722（+42）
現預金	133（+15）
売上債権	424（+28）
たな卸資産	133（+10）
流動比率　286.9%(+15.1pt)	

固定資産	407　（△1）
有形	270　（△1）
無形	2　（△0）
投資その他	134　（+0）

総資産	1,130（+40）

※（ ）内の数値は、26.3期末との比較

負債	360　（△0）
買掛金	166　（+9）
有利子負債	66（△27）
DEレシオ　0.09倍(△0.04倍)	

純資産	769（+41）
株主資本	705（+38）
その他包括利益	63　（+3）
非支配株主持分	1　（+0）
自己資本比率　68.0 %(+1.2pt)	

負債・純資産	1,130（+40）

[参考]DEレシオ：負債資本倍率。有利子負債が自己資本の何倍かを計算した数値

事業環境①

配合飼料原料の約90%が輸入原料。原料割合ではとうもろこしが約50%、大豆油粕が約15%を占める

◇ 主要原料のシカゴ相場

- とうもろこしは、26年8月以降に急騰し前年同期を上回る
- 大豆油粕は、25年10月以降高値圏で推移する中、26年8月以降に急騰し、前年同期を大幅に上回る

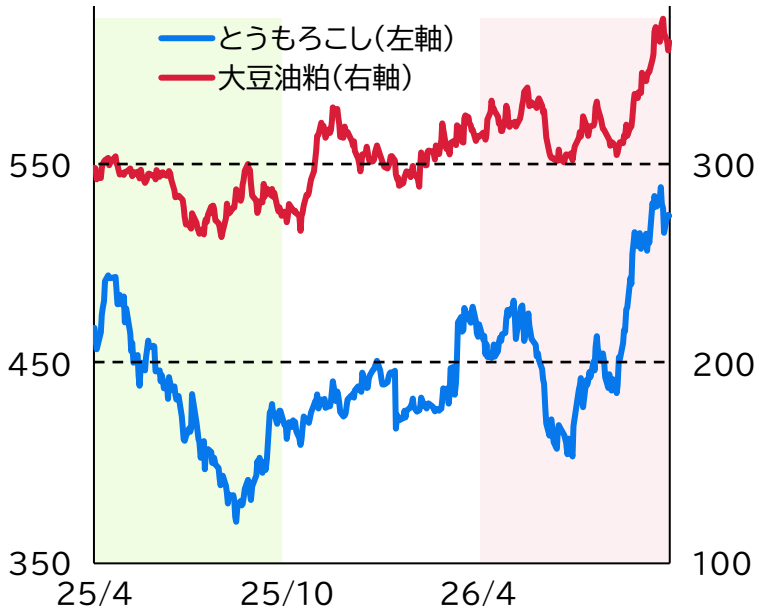
◇ 為替相場

- 日米金利差や世界的な地政学リスクの高まりによるドルへの資金集中等が進み前年同期より大幅に円安

◇ 主要原料の通関価格

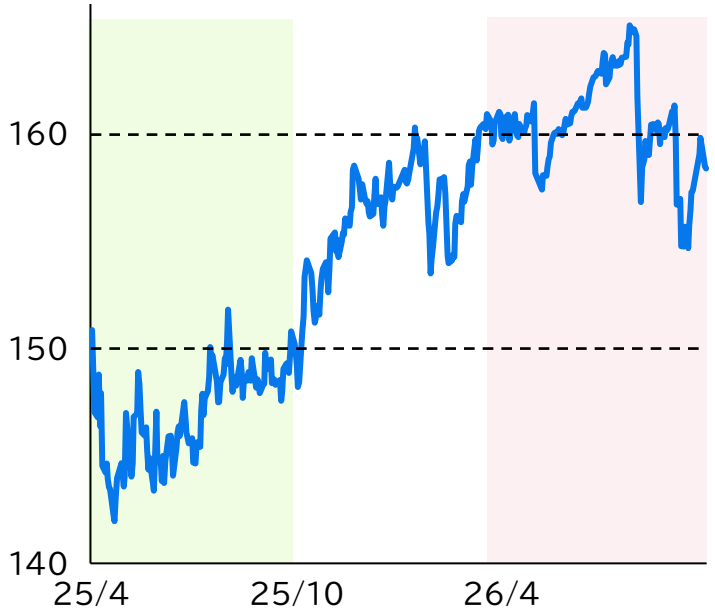
- 相場の上昇に円安も相まって、とうもろこし、大豆油粕ともに前年同期を上回る

とうもろこし及び大豆油粕の相場価格推移

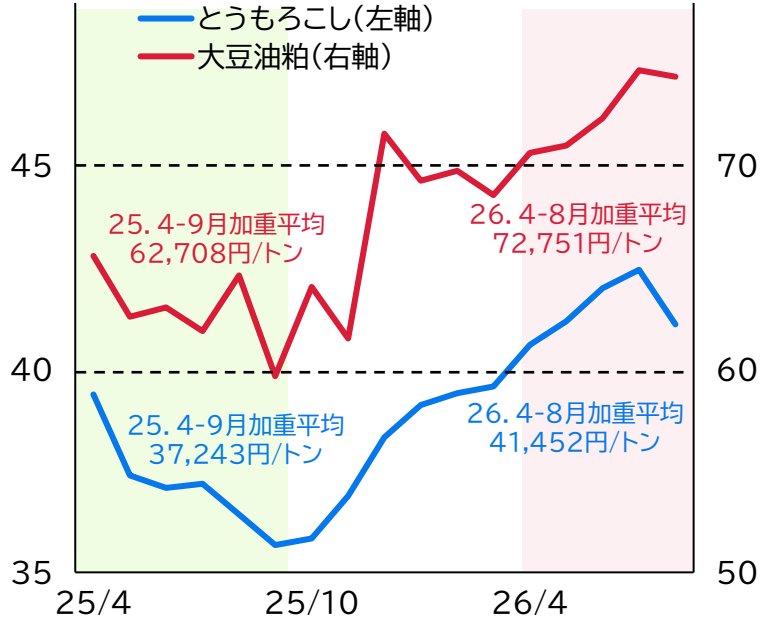


※シカゴ商品取引所のデータを基に作成

為替相場の推移



とうもろこし及び大豆油粕の通関価格推移



※財務省「貿易統計」、26/8までの推移

事業環境②

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

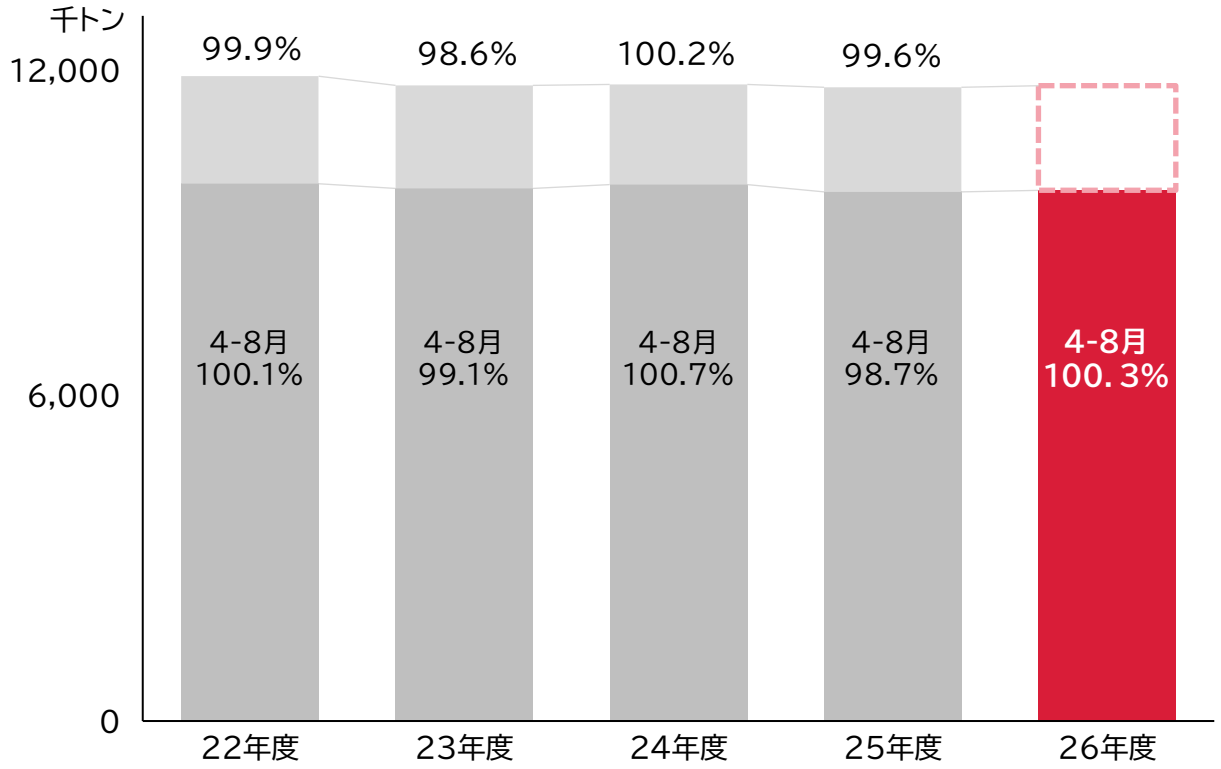
◇ 今期の畜産飼料の市場流通量

- 農場事故や家畜家きんの疾病等の影響はあったものの
  鳥インフルエンザから回復が進んだことや、暑熱の影響が限定的であったことから
  4-8月対比では前年同期を上回る

◇ 配合飼料価格安定基金の畜産家への補てん金交付状況

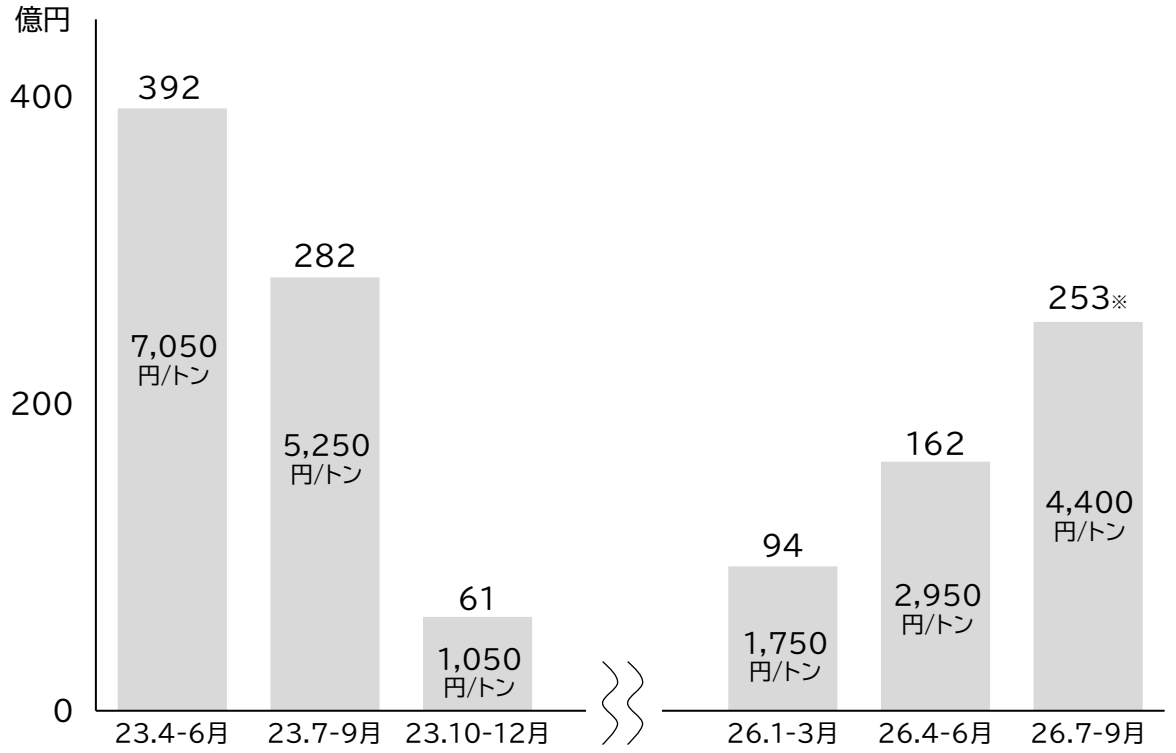
- 26年1-3月は、23年10-12月以来の補てん金交付
- 26年4-6月及び7-9月も交付され、3四半期連続となる

畜産飼料　4-9月市場流通量の推移



※配合飼料供給安定機構「飼料月報」、輸出用除く

畜産家への補てん金交付状況



※1.26.7-9月は、補てん金のトンあたり単価4,400円より当社試算
　2.棒グラフ内の数値は補てん金のトンあたり単価

事業環境③

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

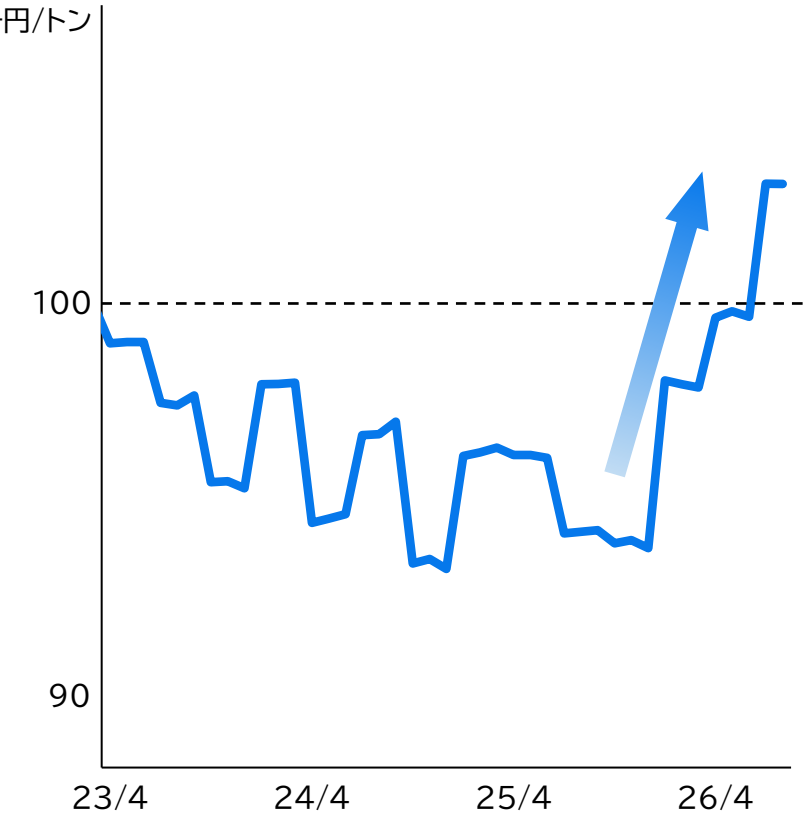
◇ 配合飼料価格

- 26年1月以降、原材料価格を反映し上昇

◇ 畜産物相場

- 全ての畜産物で高水準を維持

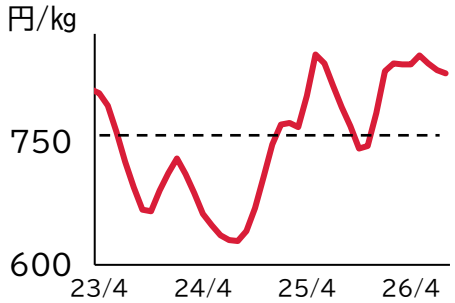
配合飼料価格の推移



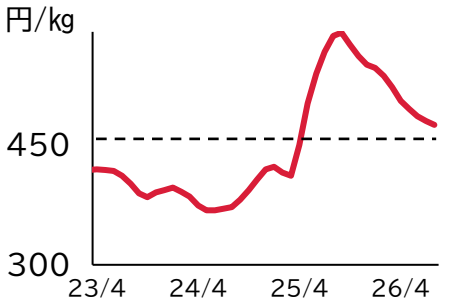
※1.配合飼料供給安定機構「飼料月報」
2.全畜種加重平均(袋物,バラ)工場渡価格、26/8までの推移

畜産物相場

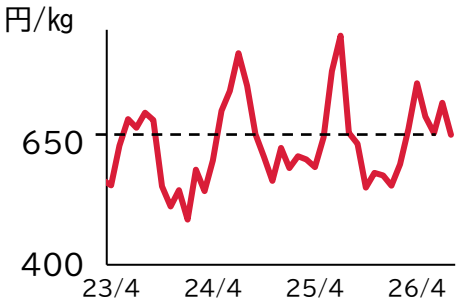
鶏もも肉
(東京卸売価格)



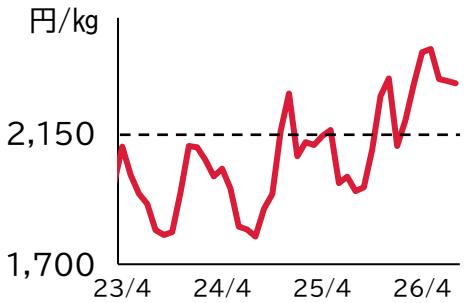
鶏むね肉
(東京卸売価格)



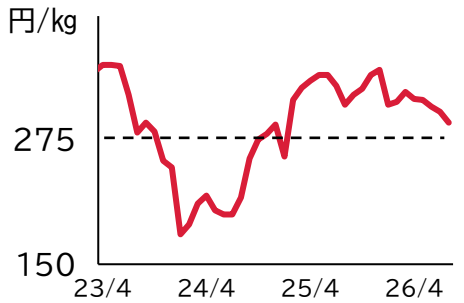
豚肉 上物
(東京市場 卸売価格)



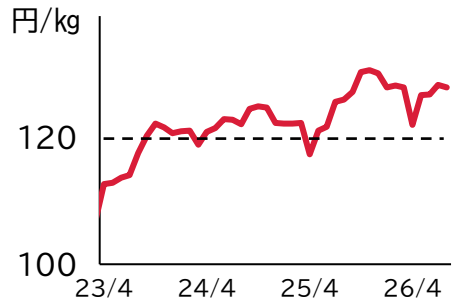
和牛去勢A3
(東京市場 卸売価格)



鶏卵
(東京Mサイズ)



生乳農家 販売価格



※(独)農畜産業振興機構「国内統計資料」、26/8までの推移

飼料セグメントの状況① 畜産飼料の動向

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

◇ 畜産飼料販売量

- 前年同期比99.1%
  - ✓ 農場事故や家畜家きんの疾病等の影響により販売量が減少
  - ✓ 採卵鶏用飼料及び養牛用飼料において、生産性向上の提案が評価され増加

◇ 環境に配慮した飼料の販売量

- 24. 3期上期対比143（前年同期実績142）
  - ✓ 採卵鶏用飼料において、窒素の排出を抑制する飼料のリニューアルや提案が進み、販売量が増加

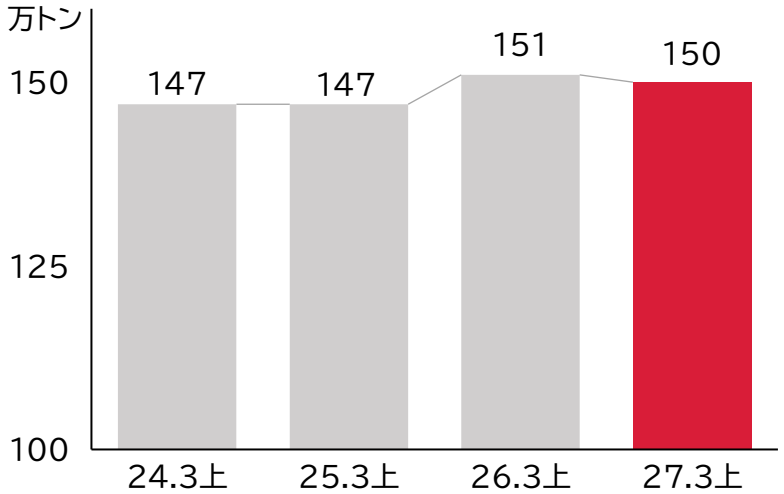
➡ **畜産飼料の販売量減少により0.8億円の利益減少**

◇ 差別化飼料比率

- 前年同期を下回る
  - ✓ ブロイラー用飼料において、差別化飼料の汎用化が進み、比率が低下

➡ **差別化飼料比率の低下により0.2億円の利益減少**

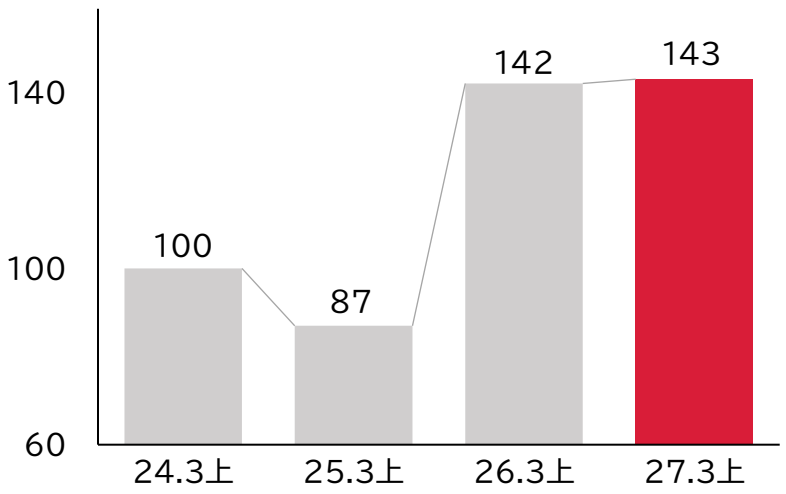
㊥畜産飼料の販売量



通期計画101%

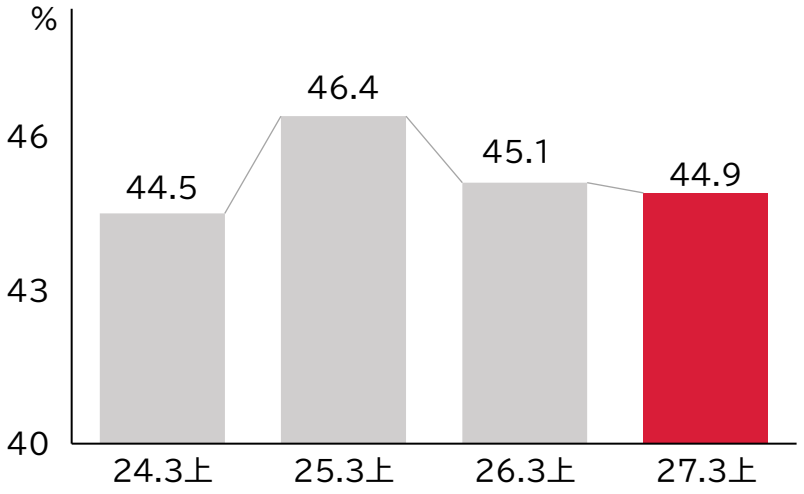
環境に配慮した飼料の販売量指数

※ 24.3上の販売量を100とした指数



通期計画150

差別化飼料の売上高構成比



通期計画46%

☀・・・計画達成　☁・・・計画未達

飼料セグメントの状況② 原料ポジションの状況

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

◇ 原料ポジション

- 前年同期比で改善
  - ✓ 原材料価格動向を踏まえた付加価値販売を推進
  - ✓ 新たな動物性原料など価格競争力のある原料の活用を実施
  - ✓ 気温や湿度等の外的要因の変化に合わせ、製造加工条件の最適化に取組み、歩留まりを改善

➡ **12.1億円の利益増加**

原料ポジションとは

配合飼料価格と原材料価格の差のこと

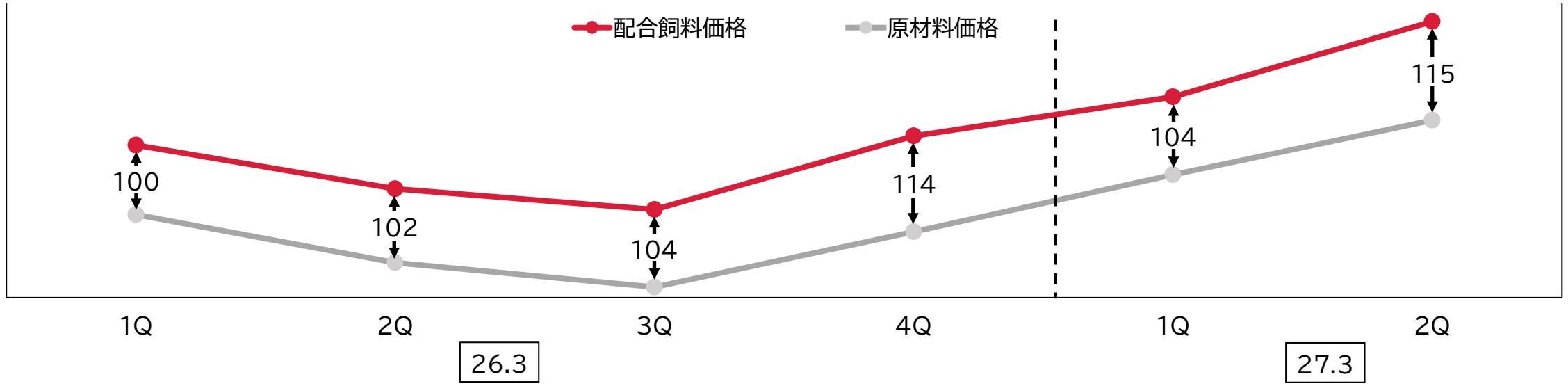
①配合飼料価格・・・ 原材料価格の動向により四半期毎に改定し付加価値販売の推進により変動

②原材料価格・・・・・ 穀物相場や為替、海上運賃等の外部要因と製造工程における改善及び配合設計の見直しにより変動

（例）①と②の差が前期比でプラスとなる場合、原料ポジション改善

㊥配合飼料価格及び原材料価格の推移

※26.3 1Qの原料ポジションを100とした指数



通期計画5.7億円 ☀

☀・・・計画達成　☁・・・計画未達

飼料セグメントの状況③ 変動費及び固定費の状況

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

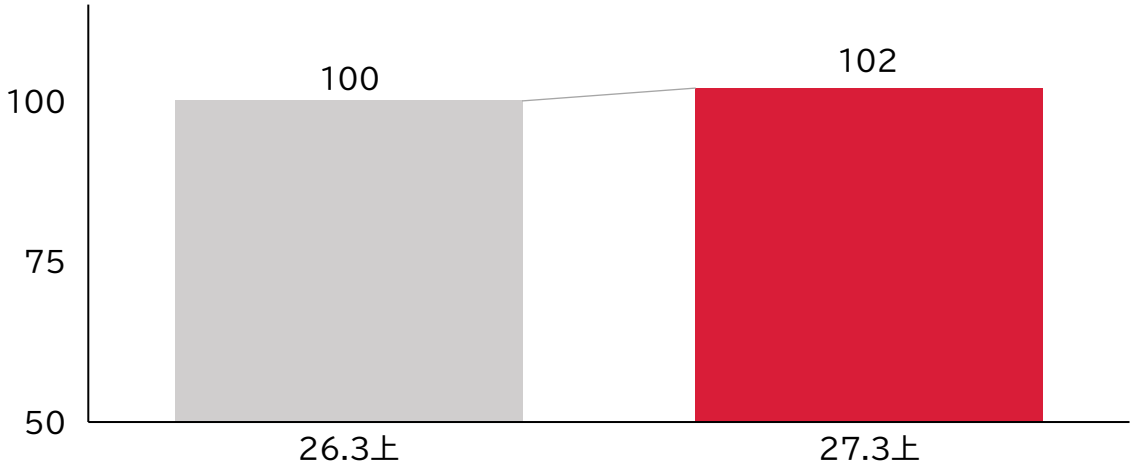
◇ 変動費(単価の影響)

- 前年同期比で増加(利益を1.3億円押し下げ)
  - ✓ 外注作業費単価及び運賃単価(飼料運搬時)は値上げの影響により上昇
  - ✓ 基金負担金の積立金単価は上昇
  - ✓ 電力･燃料費単価は補助金の影響によりほぼ横ばい

➡ 変動費(単価の影響)1.3億円増加

変動費単価の指数

※ 26.3上の単価を100とした指数



通期計画△8.2億円 ☼

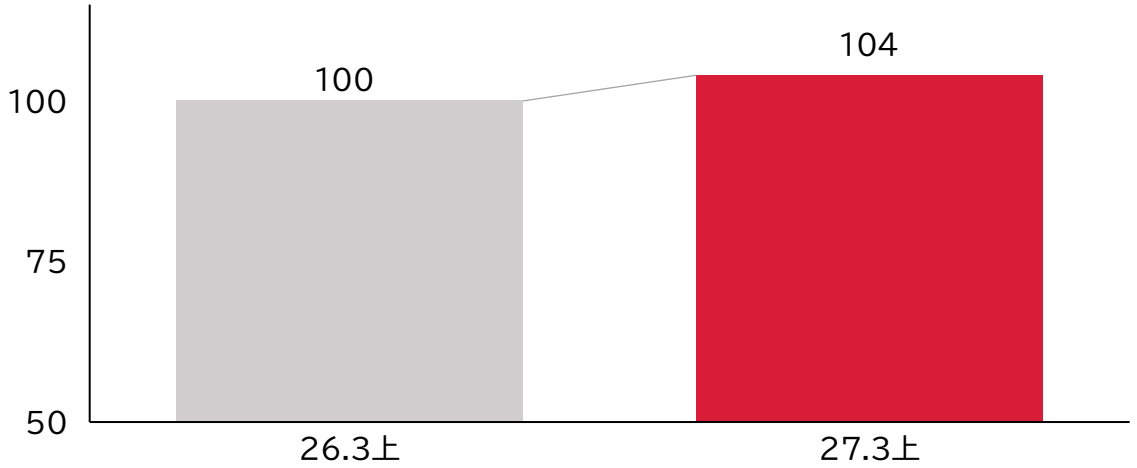
◇ 固定費

- 前年同期比で増加(利益を1.8億円押し下げ)
  - ✓ 前期4Qに設備投資が増加したことにより減価償却費が増加
  - ✓ 安定供給を果たすため、工場老朽化対策を計画的に実施し、修繕消耗品費が増加

➡ 固定費1.8億円増加

固定費の指数

※ 26.3上の金額を100とした指数



通期計画△4.4億円 ☼

☼･･･計画達成　☁･･･計画未達

飼料セグメントの状況④ 水産飼料の動向

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

◇ 水産飼料販売量

- 前年同期比132.2%
  - ✓ 魚粉の原料となる魚の漁獲量の減少で輸入魚粉価格が上昇している中、飼料価格値上げ前の先取り需要の高まりに応じ、大幅に増加

◇ 環境に配慮した飼料の販売量

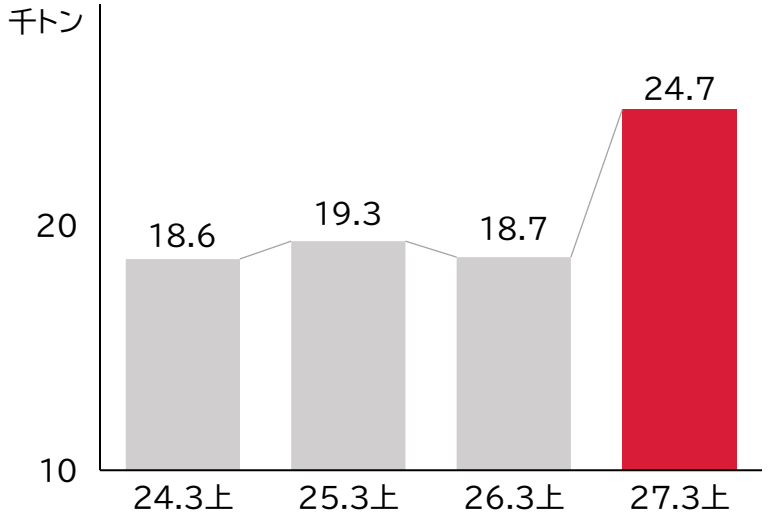
- 24.3上期対比174
  - ✓ 魚粉価格高騰により、低魚粉及び無魚粉飼料のニーズが高まり、大幅に増加

◇ 利益率

- 大幅に悪化
  - ✓ 主原料である魚粉価格の高騰に伴い、原材料価格が大幅に上昇
  - ✓ 飼料価格値上げ前の販売量が大幅に増加

➡ 2.6億円の利益減少　通期計画△0.6億円

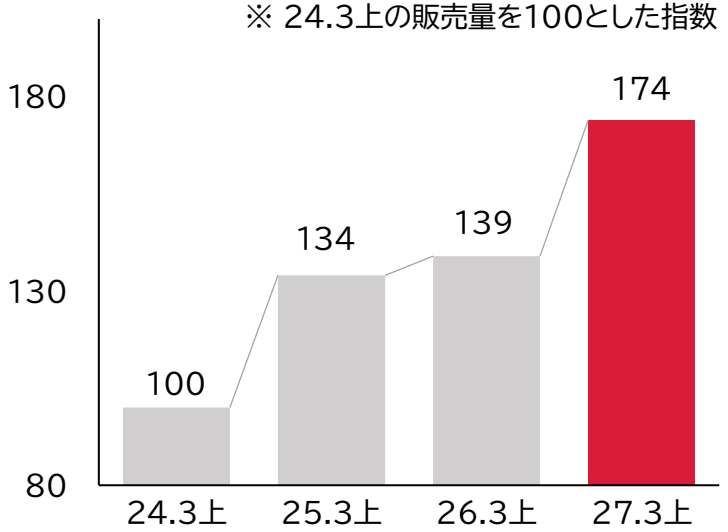
㊥水産飼料の販売量



通期計画105%

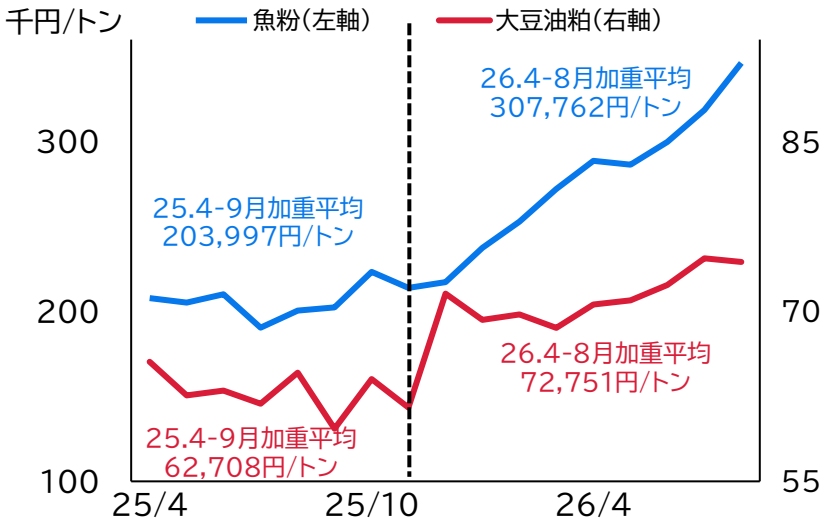
環境に配慮した飼料の販売量指数

※ 24.3上の販売量を100とした指数



通期計画160

魚粉及び大豆油粕価格の推移



※. 財務省「貿易統計」、26/8までの推移

☼・・・計画達成　☁・・・計画未達

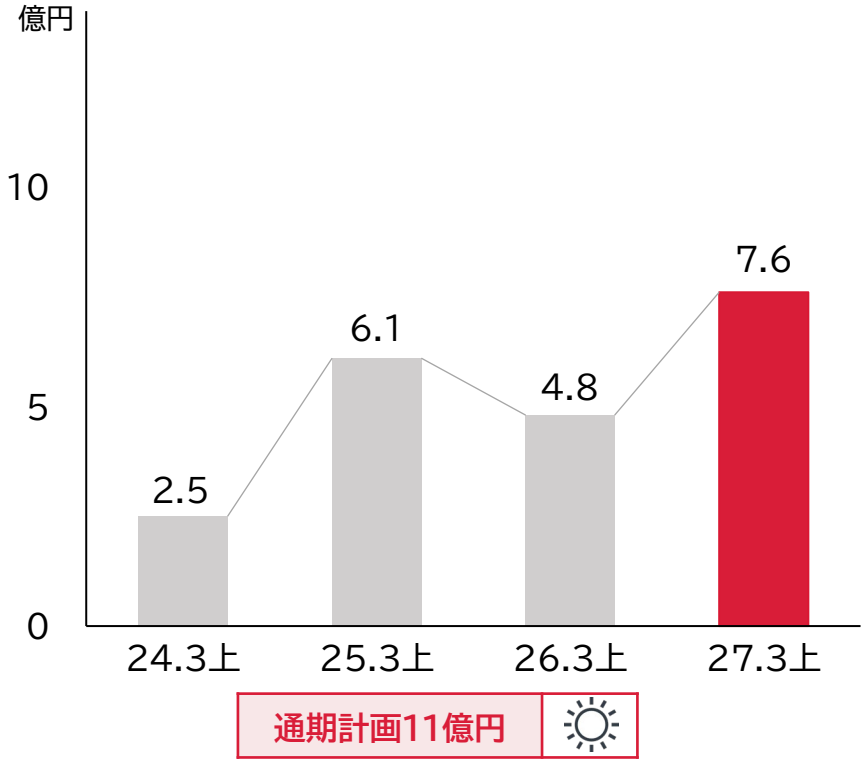
その他セグメントの状況

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

◇ その他セグメントの利益

- 前年同期を上回る
  - ✓ 各事業において販売量が堅調に推移

セグメント利益



☀・・・計画達成　☁・・・計画未達

◇ 鶏卵販売

- 主力の「ごまたまご」を中心に特殊卵の販売強化が奏功し、販売量と利益は前年同期を上回る

◇ 畜産用機器

- 機器販売台数は海外の販売が前年同期を上回り、利益は前年同期を上回る

◇ 肥料

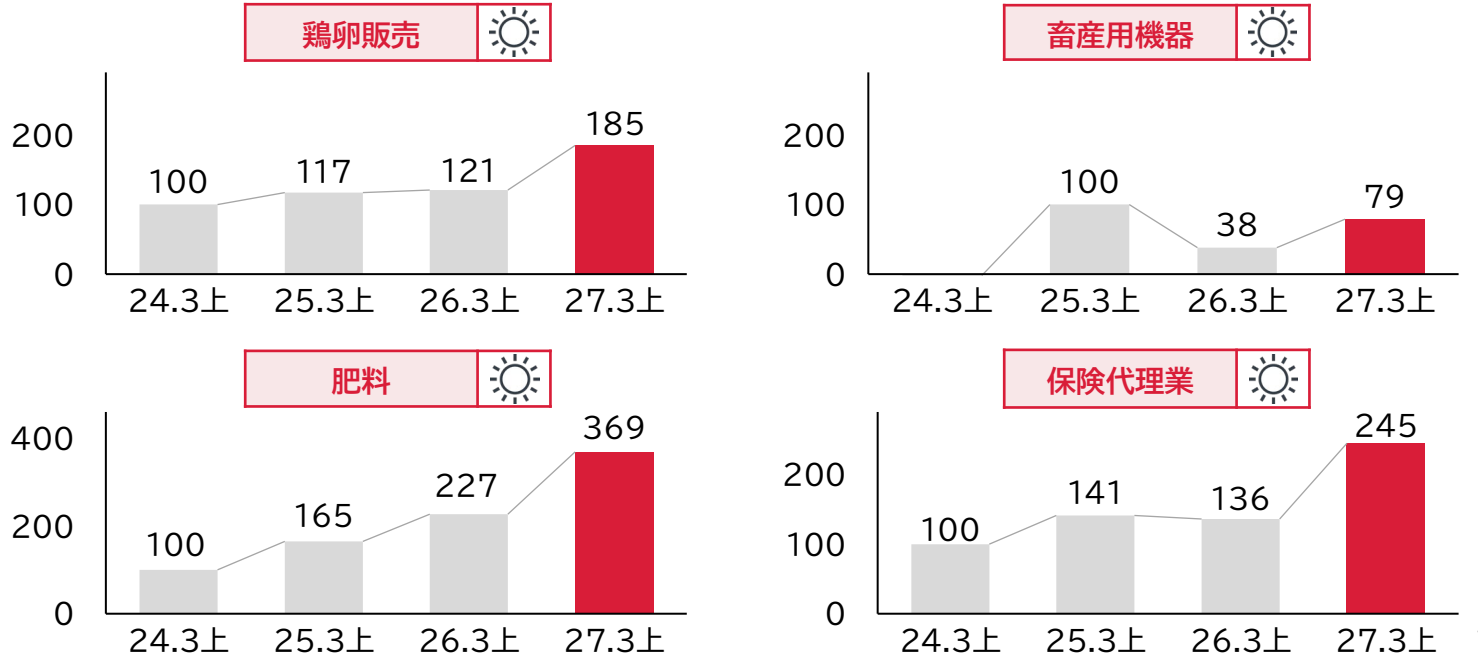
- 販売量は堆肥使用の有機入り配合肥料を中心に堅調に推移し、利益は前年同期を上回る

◇ 保険代理業

- 新規を中心に販売件数が堅調に推移し、利益は前年同期を大きく上回る

事業別の利益指数

※グラフは24.3上のセグメント利益を100とした指数。但し、畜産用機器は25.3上を100としている



目次

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

27.3期 上期 決算レビュー

◇ 連結経営成績 4

◇ 営業利益の増減要因 5

◇ 連結財政状態 6

◇ 事業環境①②③ 7-9

◇ 飼料セグメントの状況

① 畜産飼料の動向 10

② 原料ポジションの状況 11

③ 変動費及び固定費の状況 12

④ 水産飼料の動向 13

◇ その他セグメントの状況 14

株主還元

◇ 株主還元計画 16

◇ 株主優待 17

通期見通し

◇ 通期計画 19

◇ 今後の見通し①② 20-21

その他

◇ トピックス①②③ 23-25

◇ 参考資料 26

株主還元計画

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

株主還元方針

- 安定配当を維持向上
- 持続的な成長を支える成長投資や設備投資、内部留保とのバランスを取り、純資産配当率(DOE)を段階的に引き上げ、27.3期にDOE3%以上を目指す
- 株価水準や財務状況等を勘案して、自己株式の取得を機動的かつ積極的に実施

配当・自己株式取得の状況

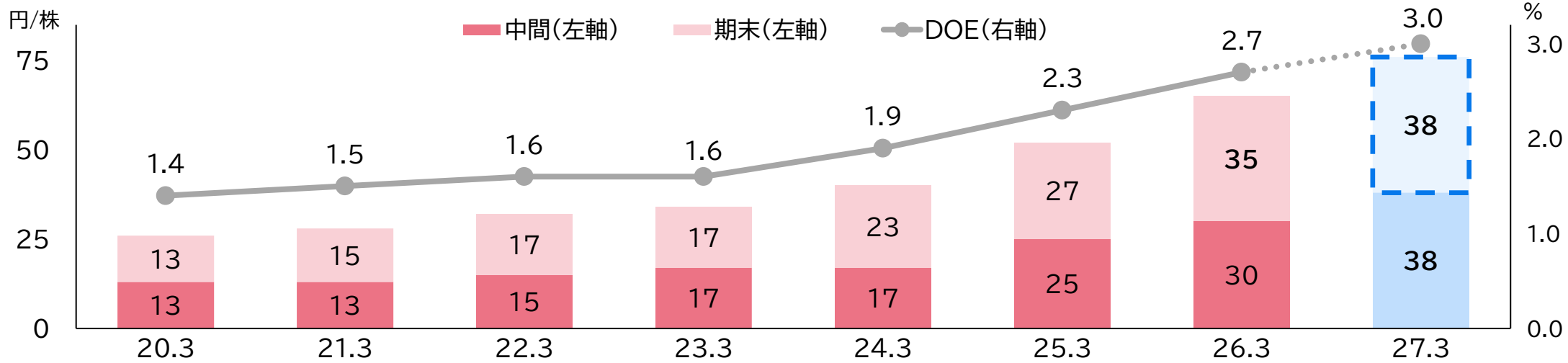
◇ 配当金

- 27.3期 ⇒ 中間は38円/株とすることを10月30日決議
  期末は38円/株とし、年76円/株(DOE3.0%)を予定

◇ 自己株式取得

- 27.3期 ⇒ 上限110万株/26億円の取得を10月30日決議

1株当たり配当金及びDOEの推移



配当金総額(億円)	7.8	8.4	9.5	10.0	11.8	15.3	18.8	21(予定)
自己株式取得額(億円)	4.6	–	2.8	2.3	–	–	15.0	26(上限)

株主優待

割当基準日：9月末

◇ 当社の有機入り配合肥料『米太郎』で栽培した
富山県産コシヒカリを11月中旬に新米でお届け

- 500株以上1,000株未満 ・・・・・・・・・・・3kg
- 1,000株以上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5kg



割当基準日：3月末

◇ 当社オリジナルQUOカードを6月下旬にお届け

- 500株以上1,000株未満・・・・・・・・・・・・・・1,000円分
- 1,000株以上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2,000円分
- 1,000株以上を1年間以上継続保有※ ・・・ 3,000円分

※ 株主名簿基準日（3月末日及び9月末日）の株主名簿に
同一株主番号で連続3回以上掲載され、かつ各基準日において
1,000株以上保有する株主様



目次

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

27.3期 上期 決算レビュー

◇ 連結経営成績 4

◇ 営業利益の増減要因 5

◇ 連結財政状態 6

◇ 事業環境①②③ 7-9

◇ 飼料セグメントの状況

① 畜産飼料の動向 10

② 原料ポジションの状況 11

③ 変動費及び固定費の状況 12

④ 水産飼料の動向 13

◇ その他セグメントの状況 14

株主還元

◇ 株主還元計画 16

◇ 株主優待 17

通期見通し

◇ 通期計画 19

◇ 今後の見通し①② 20-21

その他

◇ トピックス①②③ 23-25

◇ 参考資料 26

通期計画

（単位：百万円）

	26.3 実	通期計画	27.3上期 実	計画進捗率
売上高	211,814	221,000	112,788	51.0%
飼料	191,181	201,000	101,858	50.7%
その他	20,633	20,000	10,929	54.6%
営業利益	6,584	5,900	3,001	50.9%
経常利益	7,168	6,200	3,384	54.6%
セグメント利益	7,661	10,100	7,100	70.3%
（不動産売却益調整後）	（7,661）	（6,986）	（3,986）	（57.1%）
飼料	6,486	5,700	2,898	50.9%
その他	1,214	1,100	762	69.3%
調整額	△39	3,300	3,439	104.2%
当期純利益	5,551	6,900	4,824	69.9%
（不動産売却益調整後）	（5,551）	（4,757）	（2,682）	（56.4%）
設備投資額	4,466	3,900	1,764	45.2%
減価償却費	3,032	3,300	1,503	45.6%

今後の見通し①

項目	見通し
畜産飼料販売量	◇ 以下の飼料の拡販等により、通期計画は達成できる見込み ▶ 鶏の骨を丈夫にし、健康に育てることができるブロイラー用飼料 ▶ 製法の工夫や独自原料の利用により、成績改善や飼育作業の効率化に貢献する養牛用飼料 ▶ 独自の配合設計により、生産者の生産性向上に貢献する採卵鶏用飼料 ◇ 動物の疾病・廃業等により減少する可能性あり
差別化飼料の 売上高構成比	◇ 以下の差別化飼料の拡販等に取組むものの、汎用化が進み、通期計画を下回る見込み ▶ 成績改善や飼育作業の効率化に貢献する養牛用飼料 ▶ 形状の工夫により、生産者の生産性向上に貢献する養豚用飼料
原料ポジション	◇ 3Qは2Qと同程度で推移する見込み ◇ 穀物相場や為替、海上運賃の状況により、変動する可能性あり
変動費・固定費	◇ 変動費単価は、電力・燃料費の補助金終了や中東情勢の影響により上昇する見込み ◇ 固定費は、減価償却費と修繕消耗品費が増加する見込み

今後の見通し②

項目	見通し
水産飼料	◇ 販売量は通期計画を達成するものの、利益率が悪化し、通期計画を下回る見込み ▶ 販売量は、魚の飼料摂取量が落ちる低水温期に入ることに加え、魚粉の価格高騰及び枯渇に伴う製品の供給量減少により、下期以降は伸び悩む ▶ 環境に配慮した飼料の販売量は、低魚粉及び無魚粉飼料のニーズが強まり、堅調に推移する見込み ▶ 利益率は、値上げを行うものの、更なる原材料価格の高騰により、悪化する見込み ▶ 原材料価格は、今後の魚粉動向や為替と海上運賃の影響で変動する可能性あり
その他セグメント	◇ 各事業において、中東情勢の影響により、資材・運賃等の高騰が見込まれるがコスト削減や付加価値販売の推進により通期計画を達成する見込み

通期計画の達成を目指す

目次

CHUBUSHIRYO CO.,LTD

27.3期 上期 決算レビュー

◇ 連結経営成績 4

◇ 営業利益の増減要因 5

◇ 連結財政状態 6

◇ 事業環境①②③ 7-9

◇ 飼料セグメントの状況

① 畜産飼料の動向 10

② 原料ポジションの状況 11

③ 変動費及び固定費の状況 12

④ 水産飼料の動向 13

◇ その他セグメントの状況 14

株主還元

◇ 株主還元計画 16

◇ 株主優待 17

通期見通し

◇ 通期計画 19

◇ 今後の見通し①② 20-21

その他

◇ トピックス①②③ 23-25

◇ 参考資料 26

トピックス①グループ会社の再編

中国における子会社の設立

◇ 2026年10月8日、中国にて「中部飼料(海南)有限公司」を設立

◇ 設立の目的

- 成長著しい中国の水産養殖市場において、高品質かつ安全な水産飼料を安定的に供給するため、新たに中国において子会社を設立。

◇ 子会社の概要

(1)名　称	中部飼料(海南)有限公司	
(2)所在地	中華人民共和国　海口市	
(3)代表者の役職・氏名	董事長　伊藤敏宏(当社取締役副社長)	
(4)事業内容	水産飼料の製造・販売	
(5)資本金	6,000万元(約14億円)(予定)	
(6)当社との関係	資本関係	当社100%出資子会社。
	人的関係	当社役員・社員が代表者等を兼任。
	取引関係	新設会社のため該当事項はありません。

関連会社・三通中部飼料(山東)有限公司の持分譲渡

◇ 2026年4月、三通中部飼料の持分をSANTSUグループに譲渡

◇ 持分譲渡の理由

- 2013年に中国において、SANTSUグループとの合弁事業により、三通中部飼料を設立し、水産飼料の製造・販売を開始。
- 当社は、中国において独資により水産飼料事業を営む子会社(中部飼料(海南)有限公司)を設立し事業展開するために、合弁事業を発展的に解消し、持分譲渡を実行。

関連会社・みらい飼料株式会社の株式譲渡

◇ 2026年9月、みらい飼料の株式を伊藤忠飼料に譲渡

◇ 株式譲渡の理由

- 2015年に、伊藤忠商事・伊藤忠飼料と資本業務提携を行い、当社と伊藤忠飼料との合弁会社であるみらい飼料を通じて、飼料の共同生産事業を開始。
- 2021年に資本提携を解消するとともに、伊藤忠飼料との共同生産事業を縮小。
- 当社は、今後のみらい飼料の事業運営のあり方について伊藤忠飼料と協議を重ねた結果、当社が保有するみらい飼料の全株式を伊藤忠飼料へ譲渡し、共同生産事業を解消。

トピックス②サステナビリティ対応

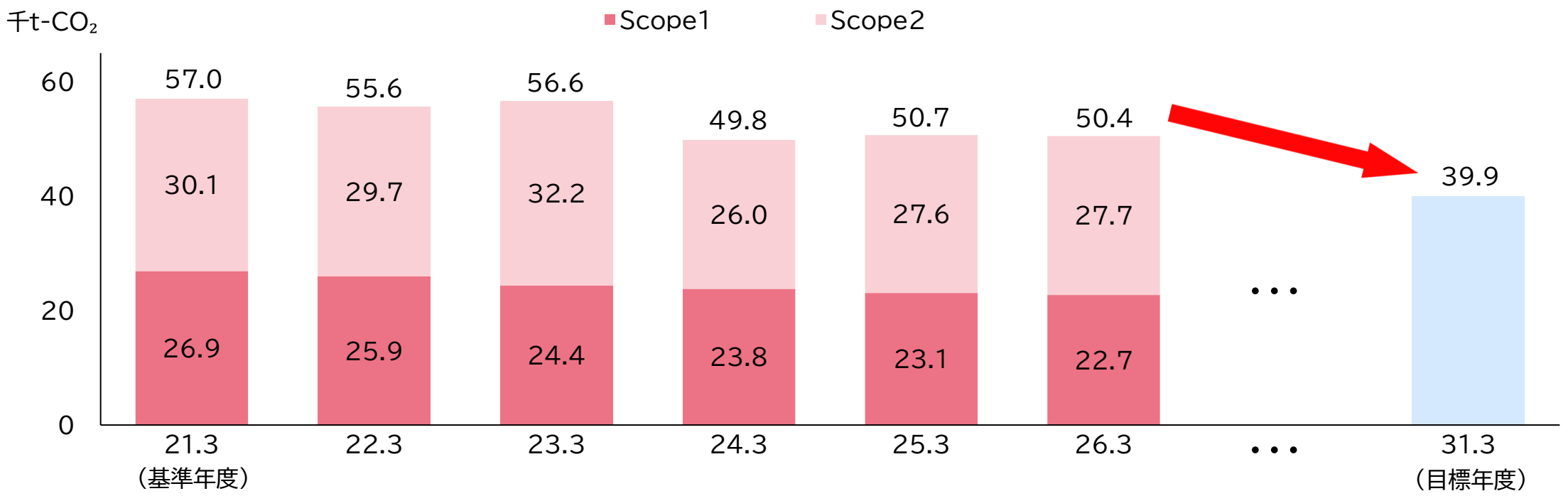
◇ 温室効果ガス排出量

- 基準年度対比△11.5%
  - ✓ 生産量は増加傾向にあるが、各工場の省エネ取組み、再エネ電力導入等により削減

◇ 温室効果ガス排出量削減の取組み状況と今後の方針

- 2030年度で、25年度数値よりさらに△約11,200 t-CO_2を見込む
  - ✓ 燃料の切り替え効果、太陽光発電利用、各省エネ取組み等により、2030年度に基準年度比△30%削減の目標達成を目指す

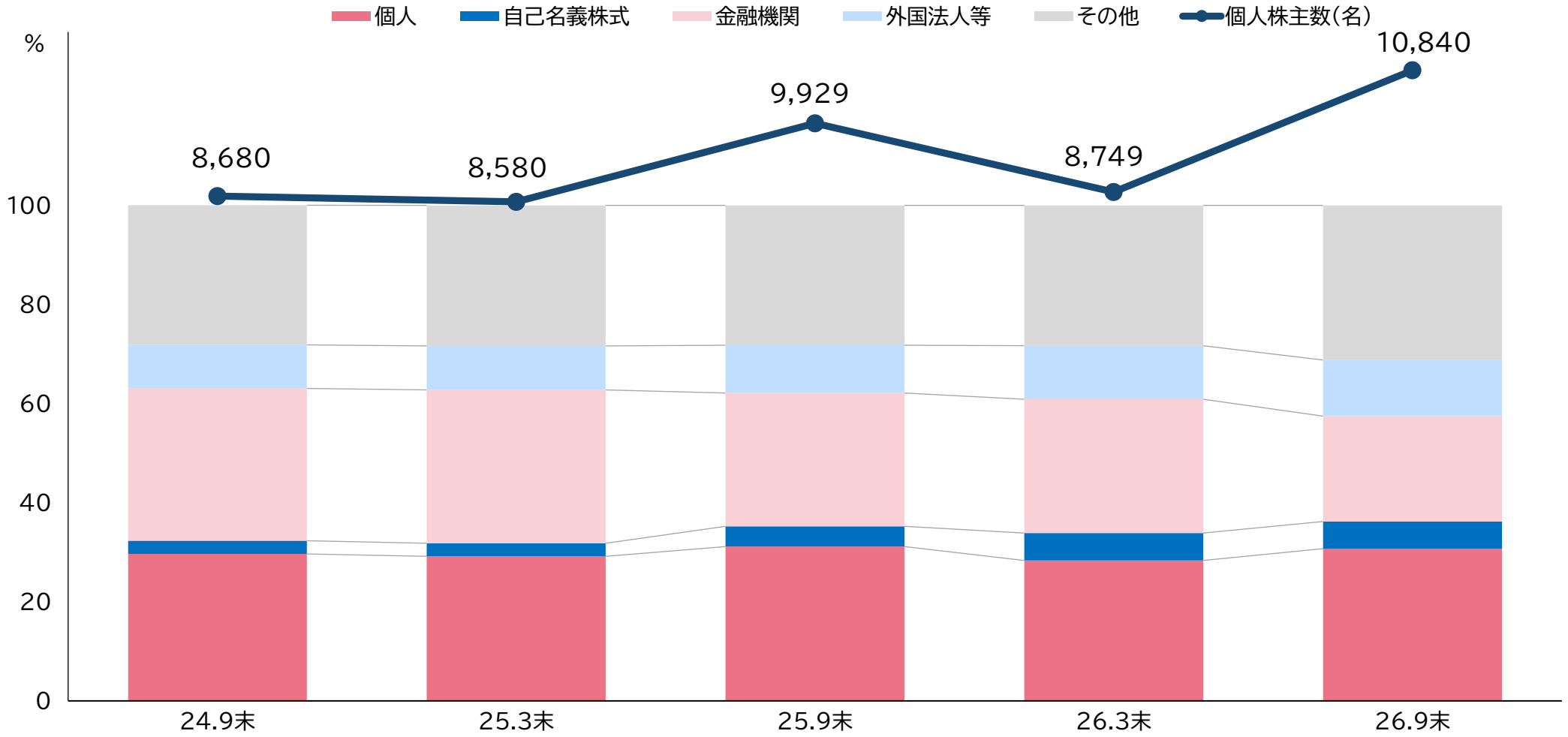
温室効果ガス排出量



トピックス③株式状況（所有者別株式比率）

◇ 所有者別株式比率について、金融機関は減少し、自己名義株式・外国法人等　は増加、個人は横ばい
◇ 個人株主数は、初の1万人超

所有者別株式比率 推移



※ 外国の法人と外国の個人株主を含む

参考資料

配合飼料価格安定基金制度とは

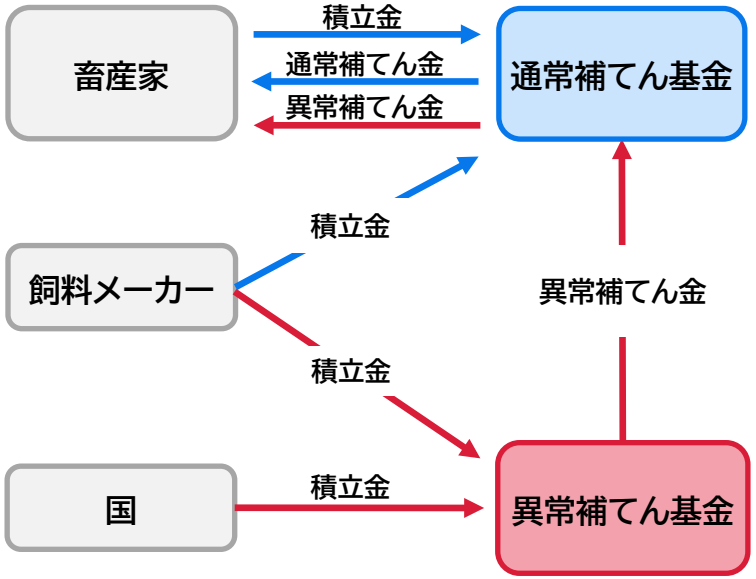
◇ 目的

- 飼料価格上昇による畜産経営の影響を緩和

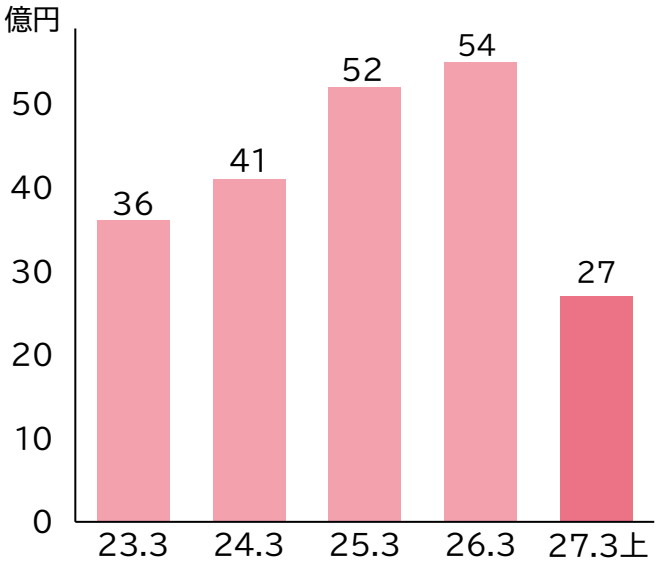
◇ 内容

- 通常補てんと異常な価格高騰時に通常補てんを補完する異常補てんの2段階の仕組みにより畜産家へ補てん金を交付
- 通常補てんは畜産家と飼料メーカーが積立て
- 異常補てんは国と飼料メーカーが積立て
- 積立金の額は財源により増減

配合飼料価格安定制度



㊥基金負担金の推移



差別化飼料とは

◇ お客様との取組みの中で開発

◇ お客様の生産性向上や特性ある畜産物の生産に貢献する高付加価値製品

環境に配慮した飼料とは

◇ 環境負荷の軽減、動物の飼育環境の改善、海洋資源の保護等につながる飼料

◇ 従来の飼料と比べ、鶏糞や豚糞の発生量を低減する飼料、魚粉を使わない水産飼料等がある



CHUBUSHIRYO CO.,LTD

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。